

平成23年度自治体国際協力促進事業（モデル事業）

インドネシア共和国パプア州に おける日本語教授法研修事業



山形県

1. 事業実施に係る経緯

山形県ではこれまで、姉妹県州盟約関係にあるインドネシア共和国パプア州から農業技術者等の研修を受け入れ、パプア州の技術力向上を支援してきた。一方、州経済が成長を始めたことを受けて、パプア州政府は、技術協力を受けるだけでなく、州の発展に有為な人材を育成するため、州内の優秀な青年を海外の高等教育機関に派遣することに力を入れ始めている。日本も先進国の一つとして派遣対象国となっており、そのため日本への留学を希望する青年には、日本語学習は必須となっている。パプア州政府も、日本語学習を重視しており、本県との交流事業において、日本語教育関係の事業実施を要望されてきている。

この要望をふまえ、これまでもパプア州の日本語教師を招へいし、日本語力・会話力を向上させるための研修を実施してきたが、他方、初級外国語教授法の技術向上や効果的な授業プランの作成などの研修は充分ではなかったため、パプア州の日本語教師の「教える力」を向上させるための事業を実施することとした。

2. 事業の目的

パプア州の高等学校において日本語を担当している教員を受け入れ、留学生の日本語教育に実績のある県内の高等教育機関で日本語教育に関する研修を実施し、授業プランの作成やポイントとなる学習事項の教授法に関する技術の向上を図る。

また、県内の日本語教育の専門家をパプア州に派遣し、日本語教授法の研修会を実施するほか、派遣した専門家による模擬授業を行い、招へいできなかった現地の日本語教師にも授業の進め方や教え方を学んでもらう。

あわせて、初級日本語の授業に役立つ教科書を作成し、パプア州の日本語教師に提供して日本語学習環境の充実に寄与する。

3. 事業内容

3-1 日本語教師の招へい研修

概要

- | | |
|--------|---|
| 6月 | パプア州政府に招へいする日本語教師の推薦を依頼 |
| 7月 | 招へい者の決定 |
| 10月23日 | 来県 |
| 24日 | 日本語教育研修 <ul style="list-style-type: none">・動詞のグループ分け（五段、上一段、下一段、サ変、カ変）・授与動詞（あげる／もらう／くれる）の使い方・伝聞の「～そうです」、様態の「～そうです」の区別・助詞「は」と「が」の違い |
| 25日 | 日本語教育研修 <ul style="list-style-type: none">・イ形容詞になるもの、ならないもの・動詞テ形の作り方（～てください、～ています等）・授与表現（～してあげる／～してもらう／～してくれる） |

- ・助詞（格フレームについて、基本的な助詞の用法）
- ・発音（促音・拗音・撥音の練習、母言語の影響について、発音練習ゲームのやり方等）

26日 山形県国際交流協会訪問
高等学校訪問

27日 離県（東京へ移動）

10月28日 帰国



東北文教大学での演習

留学生別科を設置し、留学生への日本語教育に豊富な経験を持つ東北文教大学の日本語教育の教授に研修の実施を依頼し、同大学において日本語教育に関する講義を実施した。

招へい前に電子メール等により招へい者と研修内容について意見を交換し、動詞のグループ分け（いわゆる五段活用、上一段活用等）や授与動詞・授与表現（あげる／もらう／くれる）の使い方、助詞の用法などの分野について、基本事項の確認と教え方の順序や適切や用例、教える際の注意事項について研修を行った。

また、文法だけではなく、日本語らしい発音を身につけるための発音レッスンも行い、母言語であるインドネシア語の影響から発音のしにくい音の練習の仕方や、発音図やイラスト・カードを用いた発音の練習の仕方、教え方の研修も行った。

招へい者は初めての来日であり、周囲をすべて日本人・日本語に囲まれるというのは初の経験であった。そのため、最初のうちは緊張があったが、研修中には細かい点も質問して確認するなど、積極的に研修に取り組んでいた。特に、助詞の使い分けについての質問が多く、実際に教える際の説明にも試行錯誤していることがうかがえた。

最終日は、山形県国際交流協会を訪問し、在住外国人を対象に開催されている日本語教室の経験から、外国人に日本語の基礎を教える際の留意事項について、意見交換を行った。

また、招へい者が高等学校教師であることから、日本の高等学校や高校生を実際に見ることは高校での授業運営に間接的に役に立つという視点で、県内の高等学校を訪問し、高校生と交流する機会を設けた。

教授法に直接関係することではないが、「パプア州に帰ったら日本の学校の様子を生徒たちに話すことができる。生徒の日本への興味を引き出すのに役立つ。」との感想が聞か

れた。

3-2 日本語教育専門家の派遣

- 1 2月 3日 山形県出発（日本語教育専門家3名、コーディネーター1名）
5日 パプア州着
6日～8日 日本語授業、日本語教育研修
・授業プランの組み立て方について
・模擬授業及び研修（発音練習及びその授業プラン作成について）
・ 〃 （授与表現の授業プラン作成について）
・ 〃 （動詞と助詞の関連性についての授業プラン）
9日 パプア州発
11日 山形県着

パプア州の高等学校において模擬授業を実施しながら、日本語教育に関する研修会を実施するため、12月に日本語教育専門家3名をパプア州の州都ジャヤプラ市に派遣した。

派遣期間中には、ジャヤプラ市のSMK1高校に市内の高校で日本語を教えている教師及び各校から選抜された高校生が、模擬授業の受講と授業プラン作成の研修会出席のために集まった。

午前中及び午後の一部の時間を、選抜高校生を対象とした日本語教育専門家による模擬授業にあて、パプア州の日本語教師に授業を見学してもらった。その後、授業の進め方や教え方について、日本語教育専門家と日本語教師とでディスカッションを行った。

日本語教師からは、「大勢の生徒を相手に効果的な発音の練習をするにはどういう方法があるか。」、「助詞の基本的な意味は教えやすいし、生徒も理解してくれるが、周辺の用法や基本的な意味からはずれが、多用される表現はどこで教えたらいいか。」、「『～してくれる。～してもらおう。』といった表現はよく使われるが、短い時間ではなかなか生徒に理解してもらえない。うまく説明する方法はないか。」といった質問が出され、日本語教育専門家と活発な意見交換が行われた。



開校式



模擬授業



パプア州教師との打ち合わせ



書道を通じた文字学習

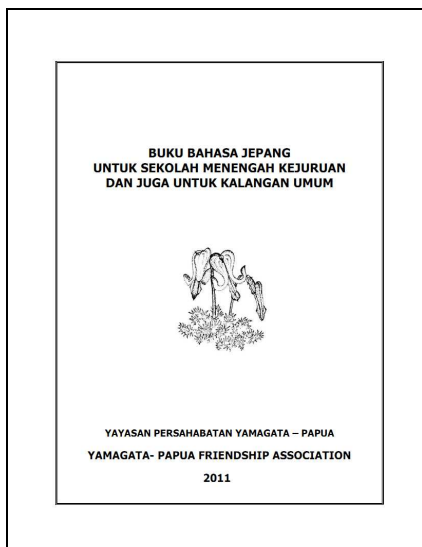
3-3 日本語教材の作成

これまでも、山形県国際交流協会や山形パプア友好協会が、パプア州の日本語教育支援のため、日本語教材の寄贈や日本語学習のための紙芝居作成などを実施してきたが、今回は、初級日本語の学習のためのコンパクトな教科書を作成することを計画した。

市販の教科書の寄贈も有益であるが、一度に寄贈できる数量に限られ、すべての高等学校、すべての学習者に行きわたらないため、広く授業で活用できるまでにはならなかった。そこで、市販の教科書ほど大部ではないが、基本的な日本語文法を学習できるような教材を作成するとともに、その電子データを提供して、パプア州の日本語教師が授業で使用したい部分を抜き出したり、編集したりして使用できるようにした。

また、教科書をインドネシア語で作成することにより、英語などの他言語を介さずに直接日本語を学習できるという利点も加えた。

作成した教科書



Daftar Isi		Halaman
PELAJARAN 1	Pengenalan Bahasa Jepang	1-
PELAJARAN 2	Hajimemashite Kalimat sapaan	6-
PELAJARAN 3	Watashi no jicho wa doko ni arimasu ka? Menanyakan tempat/lokasi	11-
PELAJARAN 4	Ôki ringo, chisai ringo Kata-kata sifat	15-
PELAJARAN 5	Himaukurô wa do deahita ka? Kata sifat: -i	19-
PELAJARAN 6	Tomu san wa genki ja nai desu Kata sifat: -na	22-
PELAJARAN 7	Fûki wa itsu desu ka? Angka, bilangan dan waktu	26-
PELAJARAN 8	Kono Kamera wa ikura desu ka? Berbelanja	31-
PELAJARAN 9	Watashi wa biru ga nomitai desu Kata kerja	35-
PELAJARAN 10	Watashi wa siku ni tabemasen Kata kerja, bentuk negatif dan bentuk lampau	38-
PELAJARAN 11	Watashi no akumi wa taberu koto desu Kata-kata kerja, Bentuk kamus	41-
PELAJARAN 12	Takusan tabete kudasai Kata-kata kerja, bentuk: 'te	44-

Pelajaran 9

Watashi wa biru ga nomitai desu
(Saya ingin minum bir)

① Kata kerja (V) + masu (Berikut: masu)
 ② ~ wa ~o Kata kerja (V) + masu (S + O + V)
 ③ Kata kerja (V) + tai (Saya ingin ~)

① ~ masu (Bentuk - masu)		
tabemasu (Makan)	Nomimasu (Minum)	Kaimasu (Memilih)
Hanashimasu (Berbicara)	yomimasu (Membaca)	kakimasu (Menulis)
Mimasu (Melihat)	ikimasu (Mendengar)	obimasu (Mengajar)
Nemasu (Tidur)	okimasu (Bangun)	benkyo shimasu (Belajar)
Ikimasu (Pergi)	kimasu (Datang)	kaerimasu (Kembali)

Latihan. Cobalah terka apa yang anda lihat dari setiap atau gerakan yang dilakukan oleh teman anda (Kata kerja).

Tokyo = ikimasu (Saya pergi ke Tokyo)
 Yamagata = kimasu (Saya datang ke Yamagata.)
 Kuni = kaerimasu (Saya kembali ke negara saya)

* (e) adalah Partikel yang menunjukkan gerakan langsung dari suatu tindakan atau gerak-gerik.

Latihan. Buatlah kalimat dengan menggunakan kata-kata di bawah ini.

Ikimasu.	Kyōto,	kenchō (Kantor Gubernur)
Kimasu.	Nihon,	kyōshitsu (Ruang kelas)
Kaerimasu.	uchi (Rumah),	watashi no kuni (Negara saya)

35

④ (Watashi wa) gohan o tabemasu (Saya makan nasi)
 * gohan juga diartikan sebagai makanan.
 Latihan. Buatlah kalimat dengan menggunakan kata-kata kerja pada halaman 35.

⑤ Watashi wa gohan ga taberai desu (Saya ingin makan nasi)

tabemasu	→	taberai
nomimasu	→	nomitai

Latihan. Buatlah kalimat seperti contoh di atas dengan menggunakan kata-kata kerja pada halaman 35.

1. desu memperlihatkan perasaan hormat.
2. gohan g sering digunakan daripada gohan ga, tetapi ga sangat tergantung kebiasaan penggunaan.
3. ~ tai hanya dipakai ketika pokok kalimatnya adalah saya atau kami.

Kaewa (Biru ga nomitai desu ne)

Ita : Aitsi desu ne. Nodo ga kawakimashita ne.
 Yoshida: Sō desu ne. Nanika nomitai desu ne...
 Ita : Watashi wa biru ga nomitai desu.
 Yoshida: Ja, Byōgōden ni ikimashō.
 Ita : I desu ne.

36

3-4 その他の交流活動



短い訪問期間であったが、研修や授業の合間を利用して、いくつかの交流事業も行った。昼休みを利用して、山形県の伝統である花笠踊りを教師、生徒と一緒にになって踊り、交流と親睦を深めた。

また、今回訪問した州立 SMK 1 高等学校の近くにある幼稚園を訪問し、紙芝居を利用して簡単な日本語の紹介を行った。世界の中に日本という国があることを伝えることができた。

4. 事業実施中の問題点と解決策

東日本大震災発生後の事業となったため、招へい者が来日を不安に思い、事業を中止することになるのではないかとという恐れがあった。パプア州も過去に何度か地震の被害にあっており、今回のような災害の後では、パプア州政府が招へい者の渡航を差し止めても

やむを得ないと考えていたが、州政府が快く招聘者を送り出し、また、招へい者も不安を示すことなく順調に研修を終えていったことは非常に良かった。これも、今回の事業の中心的な役割を担った山形パプア友好協会が、長年のパプア州との交流を通して得た州政府からの信頼の賜物である。

5. 成果と課題

短い期間であったが、パプア州の高等学校で日本語を教えている現役の教師に、授業プランの作成や教授法についての研修の機会を提供できたことは、パプア州の日本語教育の発展に寄与できたものとする。

外国語の学習は、それ自体が目的となつては、あまり効果が上がらない。効果的な授業プランやコースデザインがあつたとしても、学習者の立場からは、将来、その国を訪れたり、その言語を使用して仕事をしたりするといった目標がないとうまく機能しないのも事実である。

今後は、パプア州で日本語を学んでいる高校生に、日本語を学習することへのより具体的なインセンティブを与えることができないか、検討する必要がある。

6. 今後の展望

外国語を勉強してもらうには、その国の魅力を伝えることが重要である。パプア州高等学校での日本語教育をより盛んにするために、日本の魅力や日本語を学習するメリットを伝え、日本語を学習したいと思う高校生が増えるような事業に取り組んでいく必要がある。

パプア州政府は、優秀な学生を海外の大学に留学させて人材育成を行いたいという希望を持っている。現在、高等学校で日本語を学んでいる生徒に、将来、日本に留学したいという希望を持ってもらえれば、日本語の学習に具体的な目標ができるし、留学希望者が増えれば、パプア州での日本語教育もますます盛んになっていくと見込まれる。

今後は、日本への留学希望者が増えるような取り組みを行いたいと考える。

7. 他の自治体の参考になると思われる点

日本語の学習者が増え、知日派が増えることは、姉妹交流の活性化につながると思われる。海外の日本語学習熱は、一時期ほど高くはないが、まだまだ日本に興味を持つ者の数は多い。

今回の事業は、海外で日本語を教えている教員を支援することにより、日本語学習の裾野を広げることに貢献できた。日本語学習者が増えることにより、姉妹友好交流に参加する者が増え、交流が活発になることが期待される。